

大阪湾における蜃気楼の出現報告

大阪市立科学館

長谷川 能三

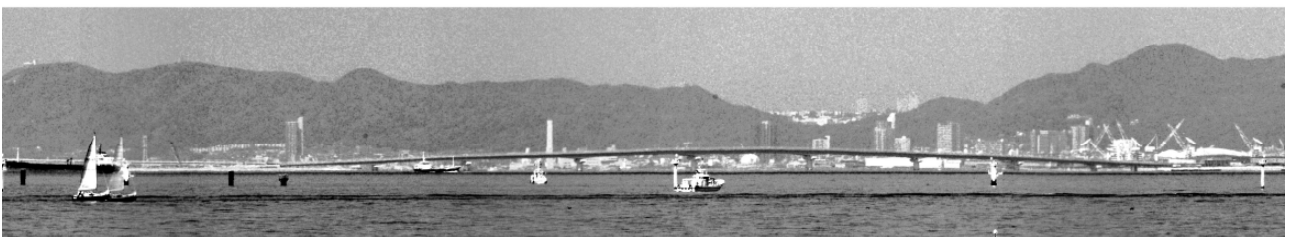
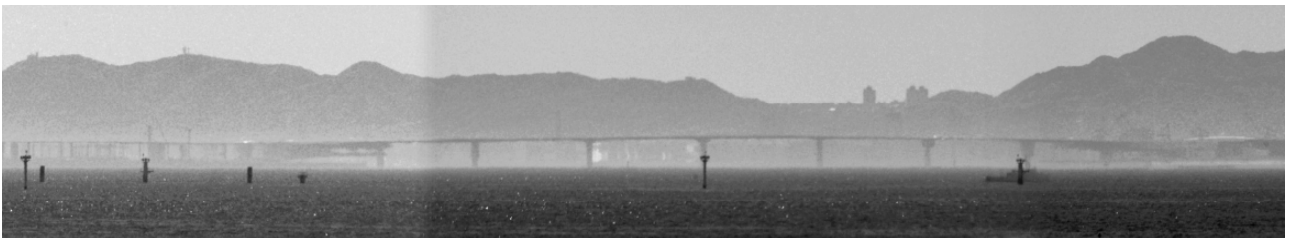
概要

前回、大阪府泉大津市の汐見公園から上位蜃気楼の一種である四角く変形した太陽を撮影したことを報告した。その後、今年4月に大阪湾で蜃気楼を見た一般の方から連絡があり、撮影した写真もいただいた。そこで、その蜃気楼の様子、当日の気象状態、この日以降の様子について報告する。

1. 2009年4月18日の蜃気楼

今回大阪湾で蜃気楼を撮影したのは、「をかしの庭 (<http://walkandsee.blog80.fc2.com/>)」というブログを書いているShin's氏で、蜃気楼の写真をブログに掲載するとともに、大阪で蜃気楼ということで私に連絡をいただいた。

撮影場所は大阪南港野鳥園(大阪市住之江区)の展望塔で、神戸空港連絡橋等が蜃気楼化しているのを見つけ撮影したという。野鳥園から神戸空港までの距離は約16km、明石海峡大橋までは約34kmである。撮影した写真では、神戸空港全体が上方に伸び、アーチを描いている神戸空港連絡橋は両サイドが持ち

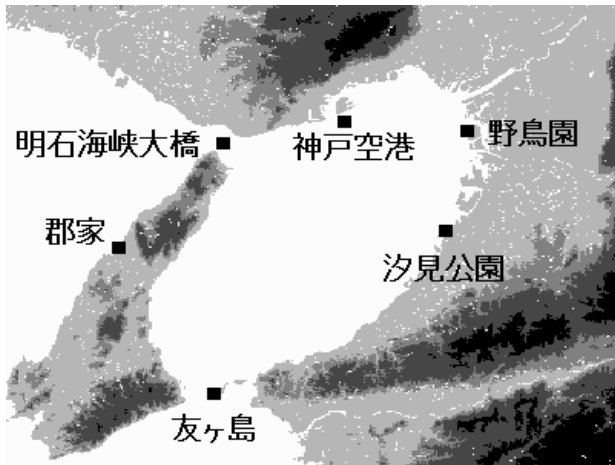


大阪湾で見られた蜃気楼 (撮影: Shin's氏)

1・3枚目: 2009年4月18日の蜃気楼(14:55~15:01)

2・4枚目: 実景(2009年4月19日)

上がったため橋全体は平坦な形に見える。また、明石海峡大橋のケーブルも実景と比べると低い部分が持ち上がっていた。さらにShin's氏の話によると、紀淡海峡方面も船が変形していたとのことである(写真は無し)。



2. 2009年4月18日の気象状態

前回、汐見公園から夕陽が四角く変形したメカニズムとして、淡路島を通過して大阪湾に流れ込む風が暖気層を形成するのではないかと仮説を立てた。今回、この蜃気楼が出現した日および他の日について、大阪湾周辺のアメダスの測定データを調べてみた。その結果、蜃気楼が出現した日だけでなく、4月18日以降に野鳥園から蜃気楼が出現しなかった日においても、淡路島の郡家アメダスでは9時半頃から16時頃まで瀬戸内海から島内へ向かう風が吹いていることがわかった。

蜃気楼が出現したかどうかで違いが見られたのは、友ヶ島アメダスの風向で、蜃気楼が出現しなかった日には13時頃から大阪湾へ強い風が流れ込んでいるのに対し、蜃気楼が出現した日には16時頃まで大阪湾にはほとんど風が流れ込んでいなかった。このことが蜃気楼の出現に大きく影響しているのかどうかは更に調査が必要であるが、紀淡海峡からの風の流入がないことにより大阪湾内は穏やかな状態にあり、そこに淡路島を通過した暖気が流れ込むことにより、下冷上暖の空気層ができた可能性が考えられる。

3. 4月18日以降の大阪湾での状況

Shin's氏の話によると、翌日の4月19日にも同じ野鳥園から景色の変形が見られたり、野鳥園以外でも大阪府内から景色の変形をみたことはあるとのことであった。ただ、いずれも「蜃気楼」といえるレベルの変形ではなかったようである。

その後、4月30日・5月1日・5月9日に野鳥園および汐見公園から観測を行なった。その結果、野鳥園か

らは4月30日と5月1日にはほとんど変形は見られなかったが、5月9日には神戸空港連絡橋の一部が太くなったり、神戸空港が少し厚みを増す、明石海峡大橋のケーブル上部が複雑な形になるなど、「蜃気楼」とまでは言えないが、いろいろと変形が見られた。また、汐見公園からは太陽が沈むのを見ることができなかったが、4月30日と5月9日に明石海峡大橋のケーブルが少し変形しているのが撮影された。

これらのことから、大阪湾においても景色の若干の変形はたびたび起きており、時には変形が大きくなり蜃気楼となっているのではないかとと思われる。